

令和3年度みやこユニバーサルデザイン審議会 会議録

日時 令和3年8月4日（水） 午後2時～4時

場所 職員会館かもがわ 3階 大多目的室

出席委員 井川委員，上田委員，大浦委員，神岡委員，北村委員，木戸委員，桑原委員，
阪根委員，サボー委員，下林委員，遠島委員，八田委員，福田委員，福山委員，
古川（敦）委員，古川（泰）委員，本條委員

欠席委員 岩城委員，高岡委員，保田委員

<議事概要>

1 会長の選任等

互選により，桑原教彰委員が会長に選任されました。

会長から，井川啓委員が副会長に指名されました。

2 部会の設置等

資料1のとおり，部会の設置が承認されました。

部会の構成員について，資料1（別添）のとおり，会長から指名されました。

各部会の部会長及び副部会長について，次のとおり会長から指名されました。

	部会長	副部会長
利用しやすい施設づくり部会	遠島委員	岩城委員
みやこユニバーサルデザイン普及推進部会	井川委員	高岡委員

3 議事・報告事項

(1) みやこユニバーサルデザイン推進に係る令和2年度取組実績・令和3年度取組予定資料2 (質疑)

- 桑原会長 「人にやさしいサービス宣言」事業について，これまで取り組んできており，280店舗の登録があるということだが，情報発信はうまくできているか。
- 京都市 以前は「人にやさしいサービス宣言店」マップを作成し配布していたが，現在は本市のホームページで店舗所在地，宣言概要等を発信している。広く必要としている人に情報が届いているかについては，十分とは言えない状況と認識している。
- 桑原会長 情報が発信されているということだが，市民公募委員の阪根委員はご存知だったか。
- 阪根委員 知らなかった。
- 桑原会長 せっかくよいデータベースとなりつつあるので，活用が進むよう情報発信について考えていきたい

(2) 令和2年度みやこユニバーサルデザイン審議会各部会の活動概要資料3 (質疑)

- 古川（敦）委員 京阪電鉄鳥羽街道駅のバリアフリー化について，トイレにユニバーサルベッドは設置されるのか。ユニバーサルベッドがないと，地べたにマットを敷いておむつを替えないといけない状況であり，これまで何度もお願いしているが，改めて強く要望したい
- 京都市 設計段階では，スペースの問題で，ユニバーサルベッドの設置は難しいと事業者から聞いている。意見聴取当時も同様の意見をいただいております。京都市としても事業者にお伝えしている。今回につ

いてはもともと多機能トイレがなかったところに多機能トイレが設置されることになったが、かなりスペースが限られており、ユニバーサルベッドの設置は難しいとのことだった。今後他の駅を改修する際には検討してもらおうよう伝えている。

- 古川(敦) 委員 折り畳み式であれば、スペースがあまりなくても設置できると思うので、ぜひ検討してもらいたい。

(3) 各局区等のユニバーサルデザインに関する主な施策、取組について資料4 (質疑)

- 桑原会長 施策一覧で、伝統工芸を活用したユニバーサル製品の開発というのがあり、産技研でされているとのことだが、ものづくりについては民間企業でされていることが多く把握しづらいと思う。どのように情報を収集しているのか。
- 京都市 市役所内部の取組については、当室から各局区等を取組状況の照会を行っている。
- 桑原会長 産技研で、二条城の触知図を開発されているが、そういったものも一覧に載せてもよいのではないかと思う。
- 京都市 ユニバーサルデザインの取組として掲載できる事業と考えられるので、掲載していきたい。
- 上田委員 知的障害児者への新型コロナワクチン接種について、知的障害児者の中にも、集団接種会場で接種せざるを得ない人もいるが、大勢の人がいるところでの接種は難しい。大声を出したり暴れたりすることもある。京都手をつなぐ育成会から、集団接種会場に別室を用意してほしいと京都市に要望したが、用意できないとの回答だった。神戸市では別室を用意してくれているようである。京都市でも用意してもらいたい。視覚障害や聴覚障害のある人への配慮はされているとのことだが、知的障害児者への配慮もお願いしたい。
- 京都市 集団接種会場に別室を用意することができないと回答したという話は存じていないが、市内では行政区ごとに集団接種会場を設置しており、物理的な制約もあるので、全ての会場に別室を設けることは難しい面もあるかと思う。一方、障害の状態によって通常の会場、通常のやり方での接種が難しいことは認識している。そういった方への集団接種会場での合理的配慮についてワクチン接種担当とも協議し検討している。できる限り配慮したい。
- 桑原会長 ワクチンは急がれるところなので早急に対応をお願いしたい。
新規の取組として、新型コロナワクチンに関する情報保障が挙げられているが、実際の活用状況はいかがか。
- 京都市 当室として実際の活用状況は確認できていない。
- 桑原会長 統計情報は今後の参考になるので確認をお願いしたい。
- 桑原会長 避難情報について、福知山、綾部などでは水害が深刻である。避難情報の発信に力を入れているが、自分ごととして捉えていない人が多く、情報を流しても避難してくれる人は9%未満。京都市内の状況は把握しているか。
- 京都市 当室としては確認できていない。
- 大浦委員 避難情報をメールで受け取るが、漢字ばかりで難解である。地名だけ拾い読みしたり、もういいやと思う時もある。もう少しわかり

やすく、一目でわかるようにした方が受け取る側も頭に入りやすい。そのような工夫もしてもらいたい。

- 桑原会長 京都市として福祉避難所の取組はいかがか。
- 京都市 福祉避難所については、市では事前登録をしてもらっている。現在約290箇所の福祉施設（特養、デイサービス、障害福祉施設、児童福祉施設）が指定されている。
- 桑原会長 登録されている福祉避難所は、高齢者や障害者が避難するのにふさわしい環境となっていると考えてよいか。
- 京都市 配慮が必要な人に安全に過ごしてもらうために、物理的、ソフト面の支援が可能である施設を福祉避難所に指定している。
- サポー委員 国際交流会館は、市内すべての外国人と地域の人を対象とした避難所になっており、外国語の対応が可能になっている。
- 上田委員 災害発生時には、まず第一段階として近くの一般避難所に避難し、次に福祉避難所に移ることになっている。知的障害のある人については、場所がころころ変わることが負担になる。今の福祉避難所への避難の考え方は、当事者の認識と異なっている。緊急時の避難所は、ただでさえ周囲がピリピリしている。福祉避難所では既に入居者がいるうえに、さらに避難していったら、支援を受けられるのかも不安である。その施設自体が被災していると、なおさら難しいのではないか。他の方策も考えていただければと思う。
- 京都市 避難に関して不安、課題はあると思う。福祉避難所については、現に入所している人に加えて受け入れられる人数を受け入れることになる。一旦、一般避難所に行っていたら、優先順位を見極め、どこへ行ってもらうか調整し、二次的な福祉避難所をご案内するという流れになっている。一次的には一般避難所への避難となるが、災害状況によっては自宅に留まる、自宅で避難している方が安全なこともある。自宅で避難している方がいることが一般避難所に伝わらなければ、取り残されてしまうことになるので、情報伝達の仕組みも考えなければならない。災害時の対応については様々な課題があると思うが、いろいろな場合を想定しながら考えていきたい。
- 桑原会長 東日本大震災の際も、避難所内での情報伝達に課題があった。避難者に必要な情報が伝わるよう考える必要がある。
- 北村委員 数年前、ユニバーサル避難所を考えていくという話を京都市の担当者から受けた。実際、ユニバーサル避難所について検討するとき、障害者団体とUD審議会、避難所の運営者側とが一緒に協議するようなことができていくのか。
- 京都市 「ユニバーサル避難所」という言い方は聞いたことがなかった。避難所内でのバリアフリーやユニバーサルデザイン化については、防災担当でも以前より意識し、様々な配慮をしている。避難所内で、大勢の中で過ごすことが難しい人に対して別室を設けるなどの対応も仕組みとして組み込んでいる。防災担当でそういった視点を含め運営を改善していくことになると思う。現時点でユニバーサルデザイン担当と一緒に取り組んでいる状況はない。
- 桑原会長 防災訓練にUD審議会委員が参加し、状況を確認することなども考えられるがどうか。

- 京都市 防災訓練は区ごとに実施している。福祉避難所の設置も含めて取り組んでいるかと思う。各区でコンセプトや視点を設定し実施しているため、そこに対して当審議会として関与できるかは防災担当とも相談していく。
- 本條委員 災害時の避難について、まずは一般避難所に避難し、それから福祉避難所に避難するという２段階の避難になるとのことだったが、大規模災害の際に、障害のある方が避難所から避難所へ移動することは困難を伴うと思う。移動に関して何かサポートはあるのか。
- 京都市 明確にお答えできないが、一般避難所へは御自身、家族、近隣のサポートで避難してもらうことになる。そこで、福祉避難所への避難について保健師などのスタッフが判断し、お声がけすることになるので、おそらく自力で行ってくださいということにはならないと思う。どういう方法を想定しているかは今お答えできないが、何らかの形でサポートするのではないかと思う。
- 井川副会長 ユニバーサル避難所について、3、4年前に京都府の方から、ユニバーサル避難所のガイドライン作るということで、アドバイスを求められ、とにかく分かりやすくしてくださいとアドバイスをしたことがある。京都府ではユニバーサル避難所の取組が進められているのではないか。
- 木戸委員 児童館でも避難訓練を実施するが、子どもたちを怖がらせすぎると避難訓練にまで行き着けないという状況がある。障害のある方や特性のある方にとって、普段からの準備が大事だと思う。
身内が、東京で川が氾濫したときに、ホームページなどで空いている避難所を探したそうだが、どこもすぐにいっぱいになって受け入れできないという状況があったとのことだ。
東日本大震災の際、避難所の支援に行ったが、避難所ではない、例えば児童館などにたくさんの方が来る状況があった。とりあえずそこで一夜を明かし、行ける人から避難所にという状況があった。避難所も混乱していた。社会的弱者や子どもに、初めから最善の環境が用意されているというのは難しいが、なるべくそういう環境になるよう、福祉避難所の設置者に普段からこのような話が伝わっていればよいと感じる。
自身が勤める児童館にも特養が併設されており、福祉避難所に指定されているが、いざ開設したときに、何人まで受け入れられるのか、子どもへのサポートをどこまでできるかなど、そこまで考えられないので、どれくらい許容できるかなど、予めわかっておき、体制がとれるようにできればよいと思う。
- 桑原会長 事前のシミュレーションやデータベース化が大切と思うが、設置者や皆さんにも御協力いただいて進めていただければと思う。

4 委員からのユニバーサルデザインに関する取組報告

(1) 井川副会長「みんなにやさしいKYOTO ユニバーサルデザインガイドマップ」

学生と一緒に作成したマップの取組について御報告させていただく。

私は芸大を卒業し、資生堂の宣伝広告デザイナーとしてやってきた。独立し、10年ほど前に縁があり光華女子大の教員となった。様々な専攻の学生が学科を越えて地域や社会に貢献できる活動がないかと考えていたときに、周囲を見ると、歩道が斜めになっていたり、ガタガタだったり、車いすや高齢の方にとって不便な状態が見られた。そこで、人にとって便利なまちづくりについて啓蒙する必要があるのではないかと考え、UDガイドマップを作ろうと考えた。

京都市では、市民のまちづくり活動に対して活動費を支給する制度を各区で実施している。右京区のまちづくり支援制度に応募し、補助を受けてUDガイドマップを作成することを考えた。その審査の場で学生がプレゼンを行ったが、審査員から、「視覚障害者がどういう不便をしているか分かっているのか、点字のものを作った方がよいのではないか。」との意見があった。学生メンバーには社会福祉を専攻している者もあり、その審査員の意見を否定するわけではないが、企画の趣旨が伝わらず、一方的な言い方をされ、評価されなかった。

学生が社会のためと思っやろうとしていることに対し理不尽な評価を受け、自分でやるしかない、学生のためにも実現させないといけないと思い、企業に広告を掲載してもらい、その資金でガイドマップを作ることを考えた。初めは、右京区には嵐山などの観光地もあるので、右京区のマップを作る予定だったが、市の一部分だけでは広告費を得られにくいため、京都市全体を考え作り始めた。ガイドマップをつくる中で様々な学びがあり、それがユニバーサルデザインに気づくきっかけとなった。

第1部として四条通（河原町、烏丸、大宮、西院）、第2部として京都駅とその周辺のガイドマップを作成した。第3部は大学を退職するタイミングなどもあり、広告費を集めることができなかつたため、観光スポットのガイドマップをまとめてWeb公開している。

普通の地図はいろいろな情報が入っているが、本当に必要な情報が分かりづらい。このガイドマップには、みんなが共有し必要なものだけをピクトグラムで表示している。郵便ポストや公衆電話（災害時には携帯電話がつながりにくく、公衆電話が使いやすいこともある）、バス停やタクシー乗り場が屋根付きかどうか重要な方があるのでその区別、歩道の幅も入れている。歩道の幅が分かると安心してその場所へ行ける。歩道の幅を入れていない箇所はあまりに細く、あまり行かない方がよいということを示している。単純なマップだが、いろいろなところで喜んでいただいた。

学生と実際に歩道の幅を測るなど調査をしている。暑い日は30分も作業をしているとふらふらになる。何度も調査に行けないので、一回の調査で集中して行った。

調査の中で気づいたことだが、自転車道と歩道の色が分かりにくい箇所が多い。どっちが歩道なのかもわからない。他にも自転車道があるが、なぜか茶色系が多い。一般的な感覚では茶色系は歩道だと思ってそちらを歩く人が多い。場所によって色が統一されていないなど、調査によっていろいろな発見があった。

完成したガイドマップを四条河原町で配布したり、京ナビでも置かせてもらっている。新聞にも取り上げてもらい、NHKニュースの取材も受けた。自分たちが思っているよりも反響が大きかった。これまでこういったマップがなかったことにも驚いた。FM京都の番組にも出演するなどいろいろな活動ができた。

京都駅についてだが、新幹線で京都に降りると、どこにどう行けばよいのかが非常にわかりづらい。「八条口」と言われても、どこを向いているのか、それがどこなのかが分からない。「新幹線中央口」と「JR中央口」の何が違うのかわからない。これでよいのかと疑問を抱いた。

京都駅といっても、市営地下鉄、JR東海、JR西日本、近鉄、伊勢丹と持ち主が違う。調査して分かったことは、どのエレベーターだったらどこに行けるか、一括してわかる図がなかった。持ち主が違うので、各社ごとにしか経路を把握していない。ガイドマップを作成することで、初めてどう繋がっているのかがわかった。繋がりが分からなければ、人は不便に感じる。各鉄道会社で「出口」、「改札」など呼び方が統一されていない。京都は国際観光都市だが、呼び方が異なると英語表記も変わり外国人には分かりにくい。

ユニバーサルデザインは、民間会社も我々も力を合わせなければよいものがない。東京の新宿駅は多くの鉄道会社が乗り入れているが、東京都が主導し、サインや表記が統一された。そういうところと比べると京都は進んでいないと感じてしまう。せつかくこのユニバーサルデザイン審議会も早くから始まっているが、一人ひとりが気付いて、民間も一緒に取り組まないと良いものできないのではないかと感じた。

デザイナーとしてキャリアを積む中で、デザインとはどういうことかと思うことがある。後輩が河野鷹思先生に「デザインとはどういうことか」と聞きに行った。一般的には「アンテナを張って、最近の時代がこう変わったから、みんなが共感できるものを考えなさい」というようなことを答えられるのかと思ったが、「気にしているということ」とおっしゃったという。これに感銘を受けた。まさしくユニバーサルデザインだと思った。デザインは、今はこうだけど、もっとこうした方がよいのではないかと課題を見つけて考えるということが大事だ。

ユニバーサルデザインとは、みんながユニバーサルデザイナーとなって、知恵を出し合い考えていくことが非常に大事だと改めて感じた。力を合わせて、審議会が中心となって京都をできるだけよい社会にしていきたいと思う。

(2) サポー委員「外国人にも暮らしやすいまちづくり」

外国人とユニバーサルデザインについて、ユニバーサルデザインの7原則のうち、外国人と深く関わるのは、原則1「誰にでも公平に使用できること」、原則4「必要な情報がすぐ理解できること」。

観光客と日本に住む外国人が出会う問題は違うと思うが、両方に共通する壁として「言葉の壁」と「異文化の壁」がある。

訪日外国人に関する言葉の壁の面では、京都市は進んでいると思う。サインの外国語表記や、外国語アナウンスは発音は少しおかしいが助かると思う。観光客案内所も多い方だと思う。周囲の外国人に京都で何が困るか聞くと、グーグルマップでバス停の場所が交差点の真ん中に表示され、道のどちら側にバス停があるかわからないということを何人からも聞いたことがある。

「異文化の壁」の例。国によって使ったトイレットペーパーはゴミ箱に入れ、ゴミ箱がいっぱいになっているという国もある。祇園では、舞妓さんに触らないでということもある。

日本に住む外国人市民が困るのは、ローマ字の名前での手続き。最近では随分ましになっているが、オンライン登録では、漢字欄とフリガナ欄の両方にカタカナを入力したり、漢字欄にローマ字で入力したりするとエラーになってしまうことがある。

親の名前がローマ字で書かれており、子どもはカタカナ表記をしていると、親子関係が証明できないと言われ、郵便局で子どもの手続きができなかったという例も聞いた。身分証明書はすべてローマ字表記になっており、カタカナ表記がされていない。カタカナが表記されていればもっと手続きがスムーズになるのではないかと思う。

この審議会でもテーマになり、皆さんと作成した「分かりやすく伝えるため」の手引きは、区役所等の職員に、どうすればもっと分かりやすく伝えられるか、という

ことを伝えるためのパンフレットで、日本に住む外国人の暮らしを簡単にするのにとても良いものだが、まだ職員にきちんと伝わっていないと感じる。よく目にするのは2つのパターン。一つは丁寧すぎる。外国人にも丁寧に話さない失礼だと考えてのことだと思うが、丁寧すぎる敬語は外国人には分からない。二つ目は、反対に、ものすごく失礼な言葉遣いの場合もある。どちらかではなく、丁寧だが分かりやすい日本語で話してくれると助かる。

昨日、タクシーを予約した際、初めのうちは丁寧に行き先や時間、住所などを確認してくれていたが、名前を伝えると外国人だと分かり、急に丁寧な言葉遣いではなくなった。こういうことはよく聞く。区役所で、日本語があまり上手に話せないと、失礼な言葉遣いで対応されたということもよく聞く。

コミュニケーション支援ボードややさしい日本語は、手続きの際に役に立つ。やさしい日本語は、漢字を減らすことが一つの特徴だが、中国の人にとってそれはマイナスになる。外来語やローマ字を使わないことは西洋人にとっては分かりづらくなるので、みんなにやさしい日本語というものは作れない。

コミュニケーション支援ボードも簡単な内容は伝えられるが、確定申告などの複雑な手続きではあまり使えない。訪日外国人には一目で分かりやすいものが大事だが、在住外国人には「もの」より「サービス」のほうが大事になる。

京都市国際交流協会はそういったことを意識しサービスを行っている。

国際交流協会は、多文化・異文化を尊重しながら共生できる社会の構築を目指して事業を展開している。また、国際交流会館の管理・運営を行っている。

「多様性は可能性。つなぐことで未来を変える。」を掲げているが、これは外国人にとってのユニバーサルデザインへの第一歩だと思う。異文化理解やボランティア活動の機会を提供し、市民と世界をつなぐ。いつでも立ち寄れ、いつでも帰ってこられる場所として施設を広く開放し、情報提供・相談、言葉のサポート、他団体との連携等、多彩な取組を行う国際交流拠点としての役割を担っている。

今回は、異文化理解の活動を紹介するが、建物も雰囲気がよく、場所も南禅寺の近くにあるので、ぜひ一度立ち寄ってもらいたい。毎年11月3日にオープンデイがあり、いろいろなイベントを行ったり、屋台の出店もある。今年も実施する予定なので、ぜひ来てみてもらいたい。kokokaは国際交流会館の略称である。

kokokaは困ったときに相談できる場所、観光案内所（日本政府観光局認定外国人観光案内所）で日本人観光客もよく来られる。イベントや講座に参加し多様な文化を身近に感じ理解を深める場所、一緒になって交流できる場所、フリースペースもある。

2階の多目的ルームは、イスラム教の人たちが足を洗い、カーペットを敷いてお祈りができる場所となっている。多目的ルームなので、授乳スペースとしても使われている。

国際交流協会のサービスを紹介する。

京都市外国籍市民相談相談窓口では、月曜日以外の9時から21時（現在は20時）まで、英語、中国語、韓国語、ロシア語、スペイン語などで対応ができる。行政通訳相談員による三者通話（トリオフオン）はとても便利。京都に住む外国人が、もっとこのサービスのことを知ってくれたらよいと思う。区役所などで言葉が通じないときに、電話で通訳を介して手続きができる。専門家による相談は月2回（メンタルヘルスについては年4回）、通訳が同席し、弁護士などに無料で相談できる。講座については、資料に記載の講座を開催している。外国人のための防災教室、安全教室も行っている。会館が避難所になっており、毎年防災訓練を実施しているが、2年に1回は実際に会館に泊まって、泊まったらどうなるかという体験もしている。子ども向けのワークショップや、警察に来てもらっての安全教室、自転車ルールについての教室も実施している。一方的に外国人に日本文化の理解を深めてもらうだけでなく、日本

人にも外国人についての理解を深めてもらうことが大事である。現在、ボランティアは約1万人登録されており、実際に活動しているボランティアも数千人いる。毎日500人を超えるボランティアが活動している。ボランティアがいないと今の協会は存在できない。

個人の活動として、70%は国際交流協会で得た知識を外国人に伝えている。30%は教員として国際交流協会を通して多文化、異文化への理解を深めるための活動を行っている。PICNIK（国際理解プログラム）では、小中学校で、自分の国、文化について話をしている。母語支援として、日本語がまだ分からない外国の子どもの学校に留学生が付き添い、周りの子どもとの間をつなぐ役割を果たすことで、異文化、多文化を子どもたちに伝えるという活動をしている。

大学の非常勤講師としては、多様性は可能性ということを学生に伝えている。日本人学生と留学生と一緒に受ける日本文化などについての授業の中で、日本人学生も違う視点から自分の文化がどう見られるかということ意識し、自文化が多文化の一つということ意識することが、多文化・異文化理解の出発点だということ伝えている。